

◆ WEEKLY REPORT ◆

R.I.D.2750 Chiyoda & Pacific Basin Group

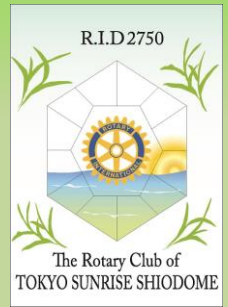
The Rotary Club of
TOKYO SUNRISE SHIODOME



R.I.会長 マーク・マローニー

2019-20 年度 会長 アンドリュー・ウォン

クラブテーマ「で愛い、ふれ愛い、たすけ愛い、世界をつないでいこう」



No.213 30.Jan. 2020 発行

第210回 例会

【日時】2020年1月23日(木) 12:30~13:30 【例会場】ザ ロイヤルパークホテル 東京汐留
【例会出席】会員数 20名 名誉会員2名 【出席者】12名 ビジター 0名 ゲスト 2名
【出席率】60.0% 【修正出席率】70.0%
【ニコニコBOX】¥ 8,000— ≪今年度累計≫ ¥ 274,737—

≪プログラム≫

- ◇ 開会点鐘 司 会：湯川愛里会員
◇ 斉唱：「我等の生業」 アンドリュー・ウォン会長
◇ 会長挨拶 梅澤武男ソングリーダー
青木様、立派な御本を有難うございます。本日はどうぞよろしくお願い致します。 アンドリュー・ウォン会長
- ◇ 幹事報告 山本直道幹事
毎年行われております3月の閑上の集いに関して、皆さん参加されるかと思いますので、鹿島会員からの資料をご一読ください。
- ◇ ゲスト・ビジター紹介 五十嵐豊会員
丹野哲男様：シリコンバレーに4年ほど居たことが有りましたが、博士課程にいた友人がスタンフォード大学での講演を聞いたことがあります。この大学は日本語の教育が有名で、季節の手紙を書く授業があり、カリフォルニアには四季が無いのでいつも生徒たちが頭を抱えるという話を聞きます。 板橋一成会員
- ◇ 出席報告
◇ ニコニコボックス発表(敬称略)
- アンドリュー・ウォン：本日の卓話講師に青木勝彦様をお招き致しました。後ほどご紹介いたします、本日の卓話を楽しんで下さい。
- 山本直道：最近とても寒くなってきましたね。皆様、体調に留意してお過ごしください。私は年末にバテましたので、今 shiri 年はもう大丈夫です！
- 梅澤武男：青木様、卓話楽しみにしています。よろしくお願い致します。
- 湯川愛里：青木様、本日卓話楽しみにしております。よろしくお願い致します。
- 戸張浩幸：青木様の卓話を楽しみにしております。寒さも厳しくなってきましたのでご自愛ください。
- 板橋一成：青木様、今日は日本映画のお話ですね。卓話を楽しみにしております。そして素晴らしい本をありがとうございます。

◆会長：アンドリュー・ウォン ◆幹事：山本直道 ◆副会長：愛知とし子【発行責任者】アンドリュー・ウォン
【創立】2014年10月15日【例会日】毎週木曜日 12:30~13:30【例会場】ザ ロイヤルパークホテル 東京汐留
〒160-0022 東京都新宿区新宿 6-18-3 (南エルーデ内) / TEL:03-6380-5798 / FAX:03-6273-1196
【URL】<http://suns-rc.org/> 【E-mail】office@suns-rc.org

◇ 卓話 『映画に魅せられて～私の追憶の名画～』

JACK 代表 青木勝彦様

最近高齢化になったせいか、映画の話を色々な所でさせて頂く機会が増えております。昔は娯楽が少なく戦後欧米から来た映画が若者に大変人気でした。私は下宿しておりました叔父の影響で映画を見るようになったのがきっかけでしたが、退職後キネマ旬報社がやっております映画検定を受けて1級に合格しました。その後高齢者向けの雑誌から1950年以前の映画の紹介をして欲しいと言う連載をしておりました。映画記述の進歩は目覚ましく、無声映画からトーキーへ、モノクロからカラーへ、画面の大きさが大まかな物ですが、モノクロの魅力というのは、黒澤明監督の『用心棒』という映画をもしもカラーで撮れば赤く血みどろの画面が続くのですが、モノクロはそれを防ぎ作品に厚みのある質感を持たせているのです。モノクロ映画を撮る時には監督たちは光と影をどう強調するか、白と黒をどうするか考えるので自ずとそれぞれの作家的思想が入り独特の魅力が出るのです。カラー映画には無い力強さがあります。日本映画の観客数は1958年がピークで、11億2700万人。この年は石原裕次郎が登場し『嵐を呼ぶ男』が仁侠映画を置いて凄まじい人気でした。この映画から見えてくることとして「裁き」の難しさです。あるシーンからあるシーンに繋ぐことが難しいのです。一番のクライマックスはラストシーンですが、『シェーン』という映画が見事な余韻を持っているものです。よく映画の重要なものとして1すじ2 抜け3 動作と言うのですが、1のすじは脚本です。小説と映像は全く違うものになりますので、原作を脚本に書き換える時に様々な変更がもたらされます。松本清張原作ものに良くみられます。『ゼロの焦点』では最後に犯人が能登の断崖の上で告白しその後能登の海に消えていくのですが、テレビのサスペンスドラマなど皆これを真似しました。『砂の器』は社会的にも影響を与えています。2001年に小泉首相が国も控訴しないとシハンセン病の患者9名と握手するのですが、小泉首相はこの映画を見てハンセン病の親子の苦勞を感じ取ったので、このような結果をもたらせたのだと言われていました。先人の言葉を活かすという事で、先程の1すじ2 抜け3 動作を経営的に焼き直せば、緻密な計画を高い技術と適切な手段で適任な人が推奨すべきと出来ます。小津安二郎の言葉「私は豆腐屋なので焼き豆腐や油揚げは出来ても豚カツやピフテキは出来ない」は自社の持つ得意技術を大切にその土台の上で企業を発展させるとなります。もう一つ小津監督の言葉で「生活条件として何でも無い事は流行に従う、重大な事は道徳に従う、芸術は自分に従う」と言うものも企業に活かせるものです。そして黒沢監督の言葉で「若い人が自分が好きでない事、関心がない事を意味がないと決めつけるのはとんでもない事だ。好奇心は進歩のスタート。自己啓発と事故の可能性の追及」この言葉は今の時代とても響くものだと思います。

◇ 講評

アンドリュー・ウォン会長

青木様、有難うございます。私も美女が出てくる洋画ばかりでしたがこれから邦画を見たいと思います。

◇ 閉会の点鐘

アンドリュー・ウォン会長



アンドリュー・ウォン会長



山本直道幹事



五十嵐豊会員



板橋一成会員



青木勝彦様



丹野哲男様



湯川愛里会員

《今後の主な行事予定》

◇ 2月24, 25日 地区大会

《今後の例会スケジュール》

- ◇ 1月30日 休会
- ◇ 2月 6日 12:30~13:30
- ◇ 2月13日 休会